

*Eyes on KANAGAWA: The Observer and the Observed*

19世紀の  
かながわ  
外国人は  
なにを  
観たのか



**神奈川県立歴史博物館**  
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

開館時間 9時30分～17時(入館は16時30分まで)  
休館日 毎週月曜日(8月12日、9月16・23日は開館)  
※9月10日(火)は、展示替えのため特別会場のみ閉室  
観覧料 一般 900円(800円)  
20歳未満・学生 600円(500円)  
65歳以上 200円(150円)  
高校生 100円(100円)  
※( )内は20名以上の団体料金  
※中学生以下・障害者手帳等をお持ちの方は無料  
※神奈川県立の美術館・博物館有料観覧券の半券提出により団体料金になります  
交通 みなとみらい線「馬車道駅」3・5番出口から徒歩1分  
JR「桜木町駅」新南口(ICカード専用)から徒歩5分  
市営地下鉄「関内駅」9番出口から徒歩5分  
電話 045-201-0926  
FAX 045-201-7364

【主催】神奈川県立歴史博物館 【助成】地域ゆかりの文化資産を活用した展覧会支援事業 【後援】神奈川県新聞社、朝日新聞横浜総局、毎日新聞社横浜支局、読売新聞横浜支局、産経新聞社横浜総局、東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局、共同通信社横浜支局、時事通信社横浜総局、NHK 横浜放送局、tvk(テレビ神奈川)、ラジオ日本、FMヨコハマ、J-COM



文化庁



JAPAN CULTURAL EXPO 2024

科研費

今から170年ほど前、「鎖国」により中断していた西洋との交流が再びはじまった19世紀半ばの「かながわ」、はどのような様子だったのでしょうか。「鎖国」体制下において、安定した社会のもと独自の文化を育んできた日本は、西洋人が訪れたことにより変容しはじめますが、「開国」初期に来日した西洋人は、まだ変容する以前の原風景を多彩な記述とともに、絵画や写真などの画像として記録しています。

「かながわへのまなざし」と題するこの展覧会は、世界一周旅行も実現可能となり、グローバル化が新たな局面を迎えた19世紀半ば以降に来日した西洋人の眼を通して記録された絵画や写真、あるいは旅行記や滞在記を手がかりに、当時の「かながわ」の原風景や人びとの暮らしぶりを中心に紹介するものです。

彼らにとって非日常であった「かながわ」の原風景のどのようなところに関心を持ち、またどのように他の西洋人にそれらを伝えたのでしょうか。私たちが当たり前であると感じていることについて、他者のまなざしを通して、あらためて「かながわ」の魅力を再発見してはいかがでしょうか。



《南蛮屏風》紙本金地著色 六曲一双(右隻) 江戸時代



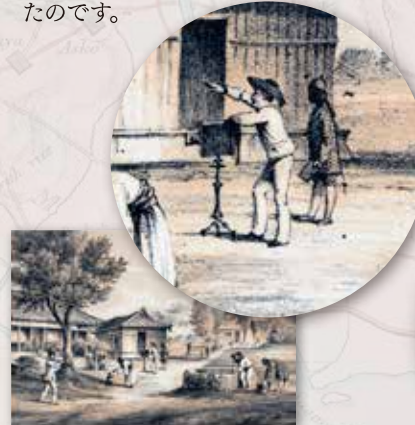
ケンペル『日本誌』(ロンドン 1727年)  
オランダ商館長の江戸参府

## II.描かれた開国

「かながわ」が本格的に描かれた初期の事例は、1853年来日したアメリカのペリー使節随行画家のヴィルヘルム・ハイネやエリファレット・ブラウン・Jr.たちによるものです。画像の多くは、使節の公式活動報告書として編まれた『ペリー提督日本遠征記』に挿絵として収められました。また、久里浜や横浜への上陸といった歴史的瞬間の場面は、大型の画像として別途制作されています。これらの画像は、その後来日した別の人物たちによってまとめられた日本滞在記や旅行記の挿絵として再利用されます。西洋における「かながわ」のイメージが、ステレオタイプの拡散されていったのです。



ヘンリー・ハウ『世界主要国の有名な旅行家の探険と旅行』  
(シンシナティ 1856年)の内「アメリカ遠征隊の日本上陸」



「琉球・泊村の寺」



「琉球踏査隊の宿营地」



「石橋と下田の寺院への入口」



『ペリー提督日本遠征記』  
(ワシントン 1856年)の内

## I.異文化との出会い

グローバル化の契機と位置づけられる15世紀から始まる大航海時代をリードしたスペイン、ポルトガルと日本との出会いは16世紀までさかのぼります。当時南蛮人と呼ばれた両国人は交易とキリスト教の布教をセットで活動しており、日本の様子は宣教師によって西洋へもたらされました。しかし、彼らの活動は西日本に軸足がおかれたことから、彼らの見聞も西日本が中心であり、日本列島の形でさえ正確に把握することができませんでした。「かながわ」に関する記述がみられるようになるのは、江戸時代になってからで、西洋へはオランダ商館長付き医師たちによる記録等により紹介されました。

## III.世界旅行家の観た「かながわ」と日本

1859年に神奈川(横浜)が開港すると当然商人が来日しますが、あわせてグローブロッターと呼ばれる世界一周旅行を目的とした旅行者も大勢日本を訪れるようになります。カナダやアメリカの大陸横断鉄道の敷設及び大型蒸気客船の定期航路開設により世界一周旅行が夢ではなくなっていました。彼らは現在でも観光客に人気が高い「かながわ」の各地を訪れたり、日本国内を旅したりしています。そして、表紙に漆による装飾が施された写真アルバムや陶磁器など、日本の工芸品に強い興味を抱き、持ち帰っています。



《桜の野毛山》アルビュメンプリント 手彩色 明治時代中期



《ウィリアムス姉妹日本旅行記念蒐集資料》  
(1897年)  
ウィリアムス姉妹と日本人通訳



五雲亭貞秀《相模国大隅郡大山寺雨降神社真景》大錦三枚続 1858年

【関連行事】

◎記念講演会

①「ペリー艦隊随行画家が描いたニッポン・かながわ」  
日時：8月18日(日) 13時30分～15時30分  
講師：嶋村元宏(当館主任学芸員)  
場所：当館講堂  
申込締切：7月23日(火) 必着

②「異文化をまなざすとは？」

日時：9月22日(日) 13時30分～15時30分  
講師：吉田憲司氏(国立民族学博物館館長)  
※「催し物のご案内」に記載の日時から変更しています。  
場所：当館講堂  
申込締切：8月27日(火) 必着

定員：各回60名

受講料：無料(ただし、当日の特別展観覧券が必要)

口学芸員と語り合おう!(展示室で学芸員と対話しながら鑑賞します。)

日時：8月10日(土)、30日(金)、9月7日(土)、17日(火)、26日(木) 13時～13時30分  
講師：嶋村元宏(当館主任学芸員)  
参加費：無料(ただし、当日の特別展観覧券が必要)

口特別企画「夜間開館」

展示期間中、一日だけ夜間開館を実施します。  
この日は特別企画として、担当学芸員によるギャラリートークも行います。  
日時：8月14日(水) 17時～19時  
※入館は18時30分まで。9時30分～17時は通常開館  
場所：当館1階特別展示室(同時期開催のコレクション展示室も開室)  
※特別展は16時30分以降は団体料金でご観覧いただけます。  
当日のイベント：18時から担当学芸員によるギャラリートーク(場所：特別展示室)

◎子ども向けイベント「展示室で〇〇を探そう！」

歴史を描いた絵画作品にかくされたモチーフを探しながら、資料をよく見る力を養うイベントです。  
日時：8月24日(土) 13時30分～15時  
講師：嶋村元宏(当館主任学芸員)  
場所：当館1階会議室・特別展示室  
対象：小学生(1組につき保護者1名の付き添いが必要です)  
定員：20名  
受講料：無料(ただし、保護者は当日の特別展観覧券が必要)  
申込締切：7月30日(火) 必着

◎は事前申込制、申込多数の場合は抽選

「往復はがき」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・行事名を全て明記のうえ、当館へお送りください。または、ホームページの「催し物案内」からお申し込みください。1件で複数名(最大4名まで)申し込まれる場合は全員分の氏名を明記してください。(1件で複数の催し物の申込はできません。催し物毎にお申し込みください。)  
※同一人からの複数の申込は、1件として扱います。  
※催し物は変更・中止になる場合があります。  
詳細はホームページをご覧ください。


宛先：神奈川県立歴史博物館 企画普及課  
〒231-0006 横浜市中区南仲通 5-60  
<https://ch.kanagawa-museum.jp/>



【次回展示のお知らせ】

特別展  
**仮面絢爛**  
—中世音楽と芸能があrawす世界—  
2024年10月26日(土)～12月8日(日)  
コレクション展  
本店本館創建120周年記念  
**横浜正金銀行**  
2024年11月9日(土)～12月22日(日)

【他機関関連展示のお知らせ】

 **横浜市歴史博物館**  
YOKOHAMA HISTORY MUSEUM  
企画展  
ペリー横浜上陸170年  
**サムライ Meets ペリー With 黒船**  
—海を守った武士たち—  
7月13日(土)～9月1日(日)



ヴィルヘルム・ハイネ《久里浜上陸》石版彩色 1855年  
※表面は本図をもとにデザイン

【同時開催】 コレクション展 2024年7月20日(土)～9月16日(月・祝)

おひろめ!

—新しく博物館の仲間になったモノたち—



大絵馬(飾り馬)  
七次観音寺 寄贈



初代川崎市長 石井泰助肖像写真  
石井登美子氏 寄贈



縄文土器(左藤内遺跡)  
黒川久江氏 寄贈

博物館活動の大きな柱の一つに、資料の収集があります。  
本展示では、近年新たに収集した資料を展示、紹介します。

本展ではスマートフォンアプリによる展示解説も実施します。

